

ガク
学校とチキ
地域をつなぐ教育広報誌

狛江古墳特集
第9号
2020年3月発行

ががが

メッセージ
いにしえからの贈り物

狛江で

一番高い墳墓

公園の中に古墳が！

猪方小川塚古墳公園 開園記念特集



いよいよ、猪方小川塚古墳が歴史公園として4月に開園します。ガクチキでは古墳の保存・整備についてご検討いただいた考古学の専門家である谷川章雄先生、池上悟先生、文化財保存科学の専門家である松井敏也先生にお話を伺い、古墳のことや猪方小川塚古墳での取組について語っていただきました。池上先生のお話は下段を、谷川先生・松井先生のお話は6・7ページ目をご覧ください。

教えて池上先生 ～古墳について聞きました～

-そもそも古墳ってなあに？-

一言でいうと古いお墓だな。ただ、古墳っていうと古墳時代（3世紀半ば頃から6世紀代）に造られた地域のえらい人の大きいお墓って考えるといいかな。決まったやり方で造られているけれど、造られた時期や場所、えらさによって大きさや形が違ってくるんだな。

-いろいろな形の古墳があるけれど、誰でも自由に造ってよかったの？-

だめだめ（笑）それなりの人しか造っちゃいけないの、前方後円墳とかはね。造るのも専門の職人さんたちがいて、でないと前方後円墳の形は造れないからな。だから、一番えらい人は前方後円墳。でも、古墳のほとんどは円墳なの。狛江の古墳もほとんど円墳。ただ、猪方小川塚古墳は、ホタテ貝の形をしているけど、あれは前方後円墳の一つだな。この辺で一番えらい人のお墓だな。

-亡くなった人はどこに眠っているの？-

古墳のてっぺんに棺に入れて埋めてあげたり、石室っていうトンネル状の石造りの部屋に眠らせてあげたり、いろいろだな。猪方小川塚古墳は、軟らかい石で造った石室を持っているな。

-どんな人が埋葬されているの？-

一般庶民ではなくて、地域を治めたえらい人だな。学校でいうとどうだろう、最初は校長先生くらいかな。次第に広がって行って副校長先生くらいまでは埋まっているかな。

-埴輪はなぜ置いてあるの？-

昔は生け贄だといったり、土が崩れないようにしているといったり、いろんな説があったな。でも、亡くなったえらい人にまつわる儀式の様子を表現しているんじゃないかな、たぶん。埴輪は、台と壺の形から始まって、それがくっついて筒の形になって、そのあと人や馬などの

形が出てくるんだな。

-猪方小川塚古墳によせて-

北関東の古墳は、硬い石を使っていて、あまり手がかからないけど、猪方小川塚古墳の場合は、切石の軟らかい石で造られた石室をいかに見せるかで、苦労したと思うよ。そういう意味では、猪方小川塚古墳が初めての試みになるかな。ほとんどが埋め戻してレプリカを見てもらうんだから。実物を現地で見てもらって、古墳ってこういう風に造られているんだなって、理解を深めてもらえるといいね。

池上悟先生
立正大学教授
専門は考古学
東国の古墳研究
の第一人者
終末期の古墳
について多くの
研究がある



小学校での授業

狛江市教育委員会では、毎年、社会教育課文化財担当の職員が小学6年生を対象に出前授業を行っています。遺跡の写真や狛江の遺跡から出土した土器などの実物を学校に持ち込んで授業をします。

実物に触れたり、身近の遺跡の話を知ったりすることで、子どもたちの古墳や狛江に対する興味・関心が高まっています。

狛江第一小学校の6年生の総合学習では、例年”Komae Pride”と称して、狛江の良いところを調べる地域学習に取り組んでいます。

今年は古墳を調べるグループがあり、令和元年11月25日の1・2時間目に文化財担当の職員が古墳について解説し、その後、子どもたちと一緒にだぐらづか 駄倉塚古墳、きょうづか 経塚古墳、かぶとづか 兜塚古墳を見学しました。



駄倉塚古墳

えっ!?これも、古墳だったんだね。



東京都指定史跡の兜塚古墳

古墳の大きさを体感！
実はここは狛江で一番高い土地。
昔はここから多摩川まで見渡すことができたのかな？



文化財担当の職員による授業

身近な遺跡から歴史学習への関心をグッと高めます！

古墳や発掘されたものについて解説を聞いた後、外に出て実際に歩いて古墳を訪ねました。



経塚古墳に登りました

マンションの隣に残されていることに驚きました。1400年前はどんな景色だったのか想像してみよう！



学校に戻っても熱心に質問していました



勉強になるなあ！

狛江古墳地図

そうだ、古墳をみにいこう！



和泉小

1. 兜塚古墳



2. 経塚古墳



駄倉塚

1. 兜塚古墳



ここが狛江で一番高い場所だぞ～！昔はここから多摩川がみえたんだって！ちなみに、いつでも見学ができるぞ！



2. 経塚古墳

これも古墳なんだよ！みんな知ってたかな～？『江戸名所図会』っていう江戸時代の有名な観光ガイドにもちょこっと載ってるんだ！隣のマンションの管理人さんに頼むと、中を見学できるよ！



3. 亀塚古墳



三中

和泉多摩川駅

3. 亀塚古墳

鏡とか貴重な出土品がいっぱい発掘されてて、全国の古墳博士はみんな知っている有名な古墳！昔はかなり大きい古墳でホタテ貝の形をしてたんだって！工事中だから写真はないけど、もうすぐ公園としてオープンするよ！遊びにきてね！もしかしたらボクに会えるかも！？



6. 猪方小川塚古墳

横穴式石室があるのは狛江でここだけ！ここも工事中だから写真はないけど、もうすぐ公園としてオープンするよ！復元じゃなくて本物が現地で見られるようになるんだ！みんな、みにきてね！





一小



市役所

古墳



狛江駅

4. 土屋塚古墳

えんどうはにわ
円筒埴輪先輩のかけらがここから
いっぱい出てきたんだよ！顔も手
もないけど、円筒埴輪先輩はボク
よりもずっと前に作られた大先輩
だよ！先輩、久しぶり～！



円筒埴輪

円筒埴輪は、第一形態の壺から進化した埴輪の第二形態。
ここからさらにヒト型などに進化し、最終的には  になる。
だから、埴輪界の新人である  は円筒埴輪先輩には頭が上がりません。

4. 土屋塚古墳

5. 前原塚古墳

むむむ、畑の中になんかあるぞ～？なんだ
ろうなあ…あっ！あれも古墳だ！テンショ
ン上がるね！でも、畑の中にあるから近づ
けないや！みんなも畑の外からみようね！



三小



二中

5. 前原塚古墳

者方小川塚古墳



六小

古墳はまだまだあるぞ！
探検してみよう！

くわしい地図は社会教育課文化財担当
まで問い合わせせてね！



とある古墳の夜明け

考古学×科学 ～実は仲良し～

専門家である考古学の谷川先生と文化財保存科学の松井先生にお話を伺いました。

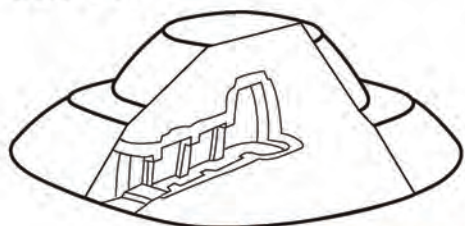
狛江はやっぱり古墳が非常に多い地域なので、古墳群の中に街がある
っていうふうに逆に考えてもいいくらいじゃないですか。（谷川）

—猪方小川塚古墳が残されたのは—

猪方小川塚古墳は、切石を組んで精巧に造られた横穴式石室をもっていますが、そういう古墳はあまりないんです、狛江の周辺には。私も発掘している現場を見に行くと、非常に驚きました。これだけの横穴式石室が新たに発見されるなんて。

非常に良い古墳なので、残されればいいなと思っていましたが、家を建てるための事前の発掘調査だったので、それは難しいかなと。ところが、早い段階で市がその土地を買い上げるようになって。これはあまりないことだと思います。狛江市は大英断だったんじゃないですかね。

古墳の価値を評価していただき残されたのは、われわれ専門家にとってはありがたい話ですし、長い目で見れば市民の方々にとっても良い財産になったのではないかなと思います。

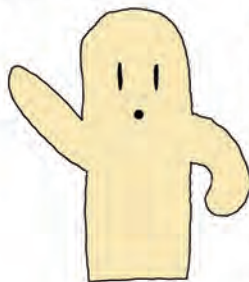


横穴式石室の断面想像図

横穴式石室が狛江にあったなんて
すごいね、谷川先生！



たにかわ あきお
谷川 章雄 先生
早稲田大学教授
専門は考古学
日本考古学協会の会長
猪方小川塚古墳保存整備検討委員会委員長
江戸時代の墓制について多くの研究がある



—古墳を現地に残すことが重要—

古墳は通常の遺跡と違って、地上に塚があり、造られた当時は墓として機能していました。それが、時代が下って、現代まで残ったってことは、長い間一種のランドマークとして認識されてきたわけですね。

その場所性っていうのは非常に大事で、古墳時代で終わりではなく、その後もその場所にあることによって、いろいろな形で利用される。信仰の対象だったり、宗教的聖地になったり、いろいろな形で利用されて残っていくわけですね。

だから、切り取ってどこかに持っていけばいいわけではなく、やはり現地にあるからこそ意味があって、その場所が昔からずっとランドマークとして認識され続けてきたということに意味があるんだろうと思います。時代を経て、人が住み続けていく中で、古墳時代の古墳がランドマークとして生き残ってきたということは興味深いですね。

—猪方小川塚古墳を歴史公園に—

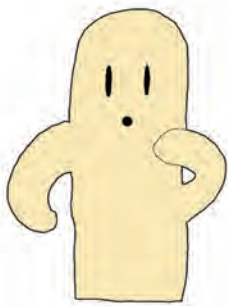
史跡の本質的な財産・価値というものを活かした形の公園になっていると思います。公園の面だけが突出しない、文化財だけが突出しない、バランスがうまくとれたいいものができていると思います。

一般的な史跡の整備では、どうしても文化財の方が前面に出てしまいがちですが、やはり公園なので、人が集まってきたり、利用したりということ踏まえて考えなければいけない。単なる史跡ではなくて、公園としても魅力的な。文化財が周辺と違和感なく街の中にうまく埋め込まれていく、その仕掛けとして歴史公園は非常に良いあり方だと思います。

歴史公園として整備していくこと自体が一つのチャレンジですが、地域によって様々な特徴があって、いろいろな種類の文化財を、歴史公園としてどのように整備していくかは、新しい試みとして取り組んでいく価値があると思います。



発掘当時の石室



猪方小川塚古墳公園ができあがるの楽しみだね！

でも、猪方小川塚古墳が軟らかい石でできてるって池上先生が言ったぞ！そんな壊れやすそうなもの（ボクもだけど）をどうやって保存するんだろ？教えて、松井先生！

貴重なものを伝えていくことに、ちょっとくらいは貢献できているのかなって感じですけどね。科学の方がね。（松井）

—現地保存するにあたってどのようなことに留意されましたか？—

猪方小川塚古墳の要は石室になりますが、敷地全体が古墳の一部であり、史跡となっています。見つかった時点で、すでに古墳の墳丘部分はかなり失われていましたが、それを出来るだけ見た目の違和感がないように整備しました。それを修景というのですが、パッとみて古墳だと分からないとおかしいので。

ちなみに、北海道・北東北の縄文遺跡群やナスカの地上絵の保存でも、同じ技術を使っています。

—石質が軟らかく保存に苦労したと聞きましたが、どのように石の補強をしたのですか？—

石に薬剤をスプレーやハケで塗り込みませ、強くしています。薬剤は液体ですが、固まるとガラスになるものを選んでます。ガラスは土や石の成分と一緒に、固まったら石になる成分の薬剤を入れているわけです。液体が入るとということは、石に隙間ができていて、そこに入るといことです。つまり、失われた部分に入るわけで、補っているんです。そして、隙間が補われると石が全体として密になるから強くなります。このようなイメージになります。

ちなみにこの技術は、カンボジアのアンコール遺跡群の浮き彫りの保存にも使っています。あと、イースター島のモアイの保存にも使われていますよ。

—歴史公園に期待することは？—

猪方小川塚古墳については、埋め戻しという選択肢もあったと思います。けれど埋め戻しをすると、地域の人たちが本物を見られなくなってしまいます。例えば、博物館などの展示で、レプリカって

書いてあったら、「なんだレプリカかぁ…」って思いますよね。やはり本物をちゃんと見せるのは、すごく大事なことだと思います。本物には、それを伝えてきた人の営みや想いが蓄積されています。文化財の価値には、大きいとか一つしかないとか、そういうものもありますけど、活用する中で文化財を伝えてきた人の想いもつなげていければと思っています。また、地域の中で、みんながリスペクトしながら共有している。自分たちのものであるという想いをどういう風につなげていくか、こんなところを体現できたらいいのかなと思います。

そして、地域の中に取り込まれていって、みんなが集まるような場所になれば



針を石にさして強度を確認しています



石材に薬剤を噴射しています

いいと思います。例えば、史跡に桜は多いけど、みんな史跡を見に行くわけではなく桜を見に行きますよね。でも、結果として史跡に人が集まっていますよね。これって、史跡と社会の関わりあいの一つで、きっかけは桜だったとしても、ふとした時や何年か後にいろんな知識が身に付いた時に、「あっ！ここはこういう場所だったんだ」と思えばいいし。費用対効果はすぐに出ませんが、こうした史跡と関わりあえる場所を地域に残していければいいかなと思います。

私たちは文化財というと、日光東照宮やピカソの絵などの美術品、「美」の価値に目が行きがちです。でも自分がどこに立脚して、どういう土地に今いるのかという、ルーツを探ろうと思ったときには、ただ美しいだけでない文化財、歴史が積み重なって時間軸を持った文化財が必要になってきますから。



開園に向けて準備中
お楽しみに！

まつい としや
松井 敏也 先生
筑波大学教授
専門は文化財保存
科学
アンコール遺跡群
などの世界遺産を
含め、石造文化財
の保存で活躍して
いる



実は凄いんだ、亀塚は

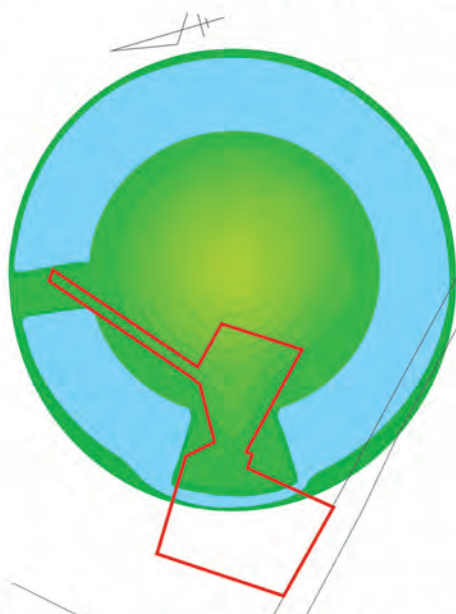
公園となる古墳の生い立ち

小田急線の高架を背に、狛江第三中学校の正門前の通りをまっすぐ進み、突き当たりを右に折れ、しばらく進むと、右手に新たに公園となる亀塚古墳があります。

亀塚古墳は、数ある狛江の古墳の中でも、とりわけ重要な古墳です。最大長約40m、高さ約7mを測り、帆立貝の形をした狛江で唯一の前方後円墳でした。残念ながら、現在の亀塚古墳は、往時の姿をほとんど留めていません。1950年頃から墳丘が削られはじめ、今では前方部の一部を残すのみとなっています…。



ありし日の亀塚古墳



亀塚古墳の想像図上から見るとちゃんと帆立貝の形に見えます。赤線内が公園として整備される範囲で、古墳の墳丘は、帆立貝の出っ張り部分（前方部）の一部が残るのみです。

1951年、墳丘が削られているのを目にした地元の有志は、亀塚古墳が壊されてしまうと危ぶみ、古墳を守るため緊急の発掘調査を行いました。この発掘調査の成果によって、亀塚古墳はその存在を広く知られるようになりました。出土した数々の副葬品から、その被葬者は狛江古墳群の盟主とされ、「狛江百塚」と呼ばれる古墳群に眠る者どもを従えていたのではないかと考えられました。



発掘当時の亀塚古墳調査の様子を大勢の人が見学しています。人の大きさと比べると、亀塚古墳がいかに大きかったかがわかります。

出土品の中でも注目すべきは、^{しんじん}「^{かぶがぞうきょう}神人歌舞画像鏡」と呼ばれる鏡で、その名のおり鏡面の裏に神人が歌舞する姿が鑄出されています。この鏡は、後漢の時代（後漢末に有名な三国志のストーリーが始まります）の中国にて造られたもので、それが狛江の亀塚古墳から発見されたのです。おそらく、中国からもたらされた鏡が、畿内の有力豪族の手に渡り、長い年月と多くの人の手を経て、亀塚古墳の被葬者の手に渡ったのではないかと考えられます。古代の中国で造られた鏡が狛江の古墳の長の手に渡る、想像してみるとなかなか壮大なストーリーです。



亀塚古墳から出土した神人歌舞画像鏡現在は東京国立博物館に収蔵されています。
※画像は東京国立博物館HPより

江戸時代、亀塚古墳はすでに「亀塚」と呼ばれ、村人たちは高貴な人が眠る墓ではないかと思っていました。亀塚古墳は、江戸時代においても特別な存在でした。

しかし、今から約60年前、亀塚古墳はその多くを失い、墳丘の一部と発掘調査の成果を高らかに刻む「狛江亀塚」の石碑が残るのみとなってしまいました。亀塚古墳を守るための発掘調査は、大いに成果をあげたものの、結果として古墳を守ることはできませんでした。

貴重な歴史遺産も、私たちが地域の宝として大切に、次世代に伝えていこうとしなければ、簡単に失われてしまいます。今の亀塚古墳は、こうしたことを教訓として伝えていきます。



狛江亀塚の石碑

